

少人数、家族客に体験観光を

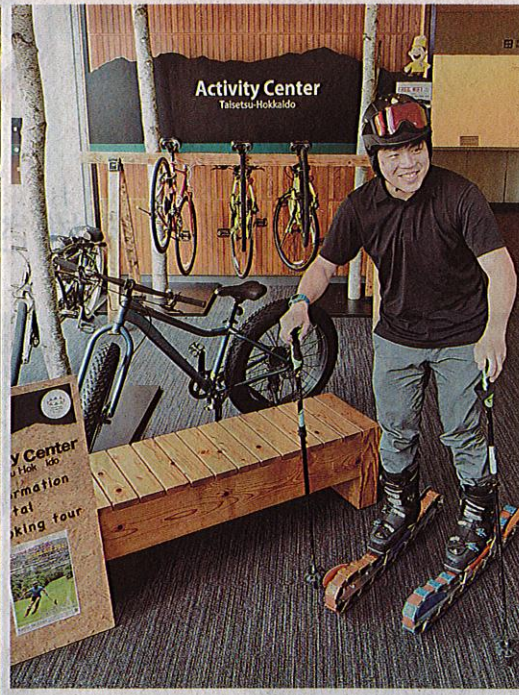
外国人、修学旅行生激減で地元で照準

新型コロナウイルス感染症拡大による観光客減少で打撃を受ける上川管内の観光関係者が、少人数の旅行者や家族客に焦点を当て、身近で楽しめる「体験型観光」のPRに力を入れている。東川町内には7月、電動キックボードや自転車を貸し出す観光案内所がオープン。JR旭川駅構内の案内所「北海道大雪地域アクティビティセンター」も、本年度初めて通年営業を目指す。(若林彩)

東川町の体験観光企画会社「アグリテック」は町内西町2の2にある元学習塾の建物に7月12日、案内所「Higashikawa Activity Center(東川アクティビティセンター)」を開設した。

同社はこれまでオンラインを活用し、道北一帯で楽しめるカヌーや登山などのツアーを企画してきたが、新型コロナウイルスの影響で主要客の外国人や修学旅行生が激減。中田浩康社長は「悩んでいる間に次の手を打たなければ」と、案内所を少人数の旅行者や家族客らに直接、体験型観光をアピールできる場にした。

旭川駅構内のアクティビティセンターで、グラススキーに試乗する職員



東川に案内所開設 電動キックボード貸し出し 旭川駅の発信拠点 通年営業化、登山に農業も

東川町の案内所で貸し出す電動キックボードを紹介する中田社長

電動キックボードや自転車、スキー、スノーシューなどを有料で貸し出す。また、客の要望を聞き、大雪山系の登山や、富良野市でのカヌー、ラフティングなどを紹介、現地のガイドにつなぎ、ツアーも組み立てる。中田社長は「観光客はもろろん、地元の人が地域の魅力を発見する機会になる」と期待する。

旭川駅旭川観光物産情報センター内にある北海道大雪地域アクティビティセンターも、7月12日に本年度の営業を開始。旭川観光コンベンション協会が大雪力ムイミンタラDMOの委託を受け、2018年度から夏季や冬季に数カ月限定で開設してきたが、本年度からは通年営業する予定だ。

DMO圏域の上川中部1市7町のサイクリングや登山を紹介するほか、今後、商店主と連携し、農業体験やまち歩き、クラフト体験のメニューも増やす。電動自転車やロードバイクの貸し出し台数を増やしたほか、旭川市内のスキー場「カムイスキーリンクス」で体験できる、ベルト付きのスキー板で芝生の上を滑走するグラススキーの見本も置いた。DMOの坂本博文地域開発部長は「東川のアクティビティとも連携し、圏域の体験型観光の発信にさらに力を入れたい」と話す。